



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://jvpf.org info@jvpf.orgTokyo



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

謹賀新年

日本の医療が世界を救う

長崎ベトナム友好協会会長
JVPF副会長 富岡 勉

新しい年を迎えられ、会員の皆様方におかれましては、ますますご活躍の程お慶び申し上げます。

長崎ベトナム友好協会は、八年前(平成一四年)に設立されました。平成二〇年からは、「NPO法人 長崎ベトナム友好協会」として活動しております。日越友好連と同じように当協会も、留学生や在留ベトナム人の方々に対して、種々の支援を行って参りました。

また、留学生の皆様方が、帰国されても主に医療関連施設への支援を継続してきました。

この一連の動きの中で、二〇〇八年九月一日に在ベトナム日本国全権大使・坂場三男大使からの手紙にて、ベトナムへのエコノミクス機器を寄贈する事になり、この度二年がかりの折衝の末、昨年(二〇一〇年九月)クアンチ省ドンハへのエコノミクス機器の提供を行って参りました。ドンハは北緯一七度線直下の都市で、ベトナム戦争当時の激戦地と言われており、いまだ医療過疎地として知られているようです。

日本から中古の医療機器を持って行くには品質保証証の発行や、関係省庁の許可が必要となるなど苦労はしましたが、日本大使館員の皆様方特に眞鍋参事官様や山下医科器械の松尾支店長様などの協力を得、なんとか贈呈へとこぎつけることができました。

ドンハの県立検診センター長のホ・チ・クウェンさんに手渡した時はホッとしました。また、途中で立ち寄ったホイアンは、長崎の商



ドンハでの授与式



ダナンの白い砂浜でおわん方の舟に乗る筆者
昔の一寸法師の原型はベトナムから来ている?

人達もその昔、多数訪れた町でもあり、さらに隣町のダナン市は白い砂丘と良港に恵まれ日本人が住むのにもピッタリの街だということが改めて確認できました。ここには、ヒラメや伊勢エビなど日本と同じような海産物がたくさん採れ、皆様方も是非一度行ってみられればと思います。今年はダナンのガン病院(ダナン癌センター)から長崎へPET/CTなどの研修に来られる予定です。

今後も、長崎ベトナム友好協会は、ダナンはじめ、各地の医療施設への支援を継続していくつもりでおります。今年も、よろしくお願い申し上げます。

二〇一一年元旦

一五年目のベトナム民族アンサンブルコンサート

隻腕のギター奏者グエン・テ・ビンの演奏が会場に感涙を！

二〇一〇年のコンサートはベトナム統一・南部解放三五周年を記念し、ベトナムの国民的音楽家、チン・コン・ソンの世界をテーマにして開催されました。特筆ものは、隻腕のギター奏者グエン・テ・ビンに依る「チン・コン・ソンの世界」でした。公演は一〇月一八日の鹿児島市を皮切りに、長崎・時津町、大分・竹田市、佐賀市、福岡市、愛媛・新居浜市、香川・三豊市、大阪市、名古屋、富山市、静岡市、埼玉・熊谷市、東京・渋谷区の二三会場で、一一月八日に離日となりました。

十〇三万人の町にベトナムの風が…

太田千賀子（時津町・長崎）

時津町文化協会では毎年鑑賞事業としていろいろな分野の催しを開催しています。今年三月初旬時津町国際交流協会より「ベトナムアンサンブルコンサート」をご紹介いただき、ふさわしい企画として理事会で決定しました。ところが、わが町が誇る「ときつカナリーホール」は、「桃花」来日期間中の土、日、祝日はすでに予約がいっぱいで、仕方なく一〇月一九日（火）の夜を予約。

担当者の来町（六月初旬）以降、企画は急速に現実味を帯びてきて、八月初旬「コンサート協力券」発売となりました。会場の座席は七七〇席で文化協会会員洩れなく来場しても満席になりました。時津町国際交流協会のご支援をいただきこれまで経費の都合で断念していた新聞広告も出し、宣伝に努めました。

公演が近づき、様々な不安がよぎりました。ベトナムの皆さんの食事や飲み物、交流会は「ヤキトリ屋」でいいのか…？ 気温への対応は？ 病院の手配は？ いやいやそれよりも協力券がいまいち売れてないぞ！ などなど…

そんな心配をヨソに日にちはどんどん近づき、MC担当者からプログラムの読み方がわからないカタカナ表示を！とSOS。お茶や水、ジュース果物などを多めに準備しました。そんな中お菓子やパンなどの差し入れのうれしい申し出もありました。

当日、高齢者が多い我がメンバーもチョット、無理（？）して若々しい対応でお迎えしました。演奏会は大好評でした。花束贈呈や交流会では茶道の先生でもある副会長の和服姿が人気、また男性副会長は昔覚えたベトナムの歌や得意のマジックを交流会で披露し、ステージともども日越友好、文化交流の夕べとなりました。

グエン・ドクさんを招聘・講演

高松 彩（福岡）

二〇〇〇年から二年に一度、福岡でのコンサートをやってきました。二〇一〇年は、ベトナム統一三五周年・ハノイ遷都一〇〇〇年という節目の年。例年と趣向をかえてと実行委員会で検討しました。在福岡ベトナム領事館の方々の協力を得ることができ、枯れ葉剤被害による結合性双生児として知られているグエン・ドクさんをコンサー

トに招聘することができました。ドクさんが初来福されるということで、新聞三社に取り上げられ多くの人の関心を集めました。コンサートの前に、枯れ葉剤被害の現状を講演してもらいました。観客の中には初めて枯れ葉剤被害の状況を聞く人も多く、いい機会だったと思います。ドクさんは、枯れ葉剤の被害についてもっと多くの人に知ってもらいたい、被害者が自立していけるようにはたらかけていきたいと話してくれました。

今年は、ホテルの会場で約三五〇人がドクさんの話に耳を傾け、コンサートを堪能して大成功に終わりました。

コンサート後には、「ハノイ一〇〇〇年・ベトナム戦争集結・統一三五周年」を記念してレセプションを行いました。レセプションには村山富一氏を招待し、挨拶をいただきました。JVPF日本ベトナム平和友好連絡会議会長である村山氏の存在は、ベトナムの方々にとって大きなものであることを再認識しました。日本とベトナムとの交流をこれからも継続してこうという思いが深まりました。

市内の全小・中・高校、公民館を回る

石川みのも（新居浜・愛媛）

四月に一〇月二五日に新居浜公演を決めました。これまで今治、宇和島で公演されており、携わった方からは「良かった」「感動的だった」と高い評価があるが、私には判らなもので、周りの人に対してその良さ・感動を説得力を持って伝えることができません。

そこで香川県の実行委員会から過去の写真を収めたDVDを送ってもらい、新居浜の実行委員会



隻腕のギター奏者グエン・テ・ビン



ドクさんを招いて（福岡）



フォトジャーナリスト村山康文氏の公演（近畿）



禅寺での公演ではこどもの達の踊りも（名古屋）



アンサンブル公演の模様（鹿児島）

の方々を鑑賞しました。しかし、視覚的な華麗さは理解できても、民族楽器が織りなす聴覚的理解を得ることができませんでした。

公演日は迫るばかりで、まず九月一六日から市内の公民館一五館を回りました。私は県会議員で九月県議会の準備もあり、新居浜と松山は約七〇キロの距離で時間にして約七〇分あります。この距離と時間を考えると負担になりました。

ようやく、一〇月一日から市内の小・中・高校三五校を回ることを自らに課しました。その数は公民館と合わせて五〇カ所を越えました。さらに協力券の販売、広告取り。そして県議会、体調を崩した先輩議員のカバー、その合間を縫ってのコンサート成功に向けた活動でした。そして、新居浜では全ての日常が止まってしまいう秋祭りが始まり、元気な父親が手術のため入院と、とにかく私は時間との戦いでした。

それでも、グエン・テ・ビンさんの片腕で奏でるギターの音色を聞き、その姿を見て、今までの

苦勞が吹っ飛びました。会場での支援物販が一〇万円を越えたことは、コンサートの感動を表しています。

コンサートとグエン・テ・ビンさんをもっと早くから知っていれば良かったと思うには少し遅すぎた？

桂川 悟（大阪）

参議院選挙の準備に飛び回っていた五月、コンサート受け入れの話が舞い込んできました。会場はクレオ大阪、一〇月三〇日開催とし、本格的な取り組みは選挙後にすることにしました。

七月、実行委員会準備会開催、取り組み開始。八月、日越関西友好協会とベトナム領事館に、共催・協賛を要請し快諾を得ました。九月、宣伝ビラ、チケットが届き、これで準備万端。あとは、広告を取り、チケットを売りに回るだけと思っています

した。

しかし、文化運動に極めて不慣れた私達は、戸惑うばかりでした。会館と技術者との関係・システムについての無知。演説会の司会程度のことを想定していたら、台本を見てびっくり仰天等々。三五年前の「ベトナム反戦・御堂筋デモ（大阪）」や「祇園石段下デモ（京都）」を懐かしく思い出しながら快く協力して頂いた人もいました。

一方、ベトナム戦争を書籍やテレビ等で歴史的事件として知ったという人に遭遇しました。一瞬驚くが、当然のことで、当時彼はまだ生まれていなかったのです。それは、ベトナムの枯葉剤被害を後世に伝え、平和の尊さを訴えることの意義を改めて感じられる出来事でした。

ベトナム戦争を「知らない」世代向けの独自企画の必要性が迫られました。実行委員会に集う青年たちは、同戦争が記憶にない世代でありながらベトナムの社会問題をカメラとペンで追いつけるフォトジャーナリスト・村山康文氏の講演と共に

写真展を開催しました。

本公演が「坊や大きくならないで」を口ずさんだ世代のみならず、若い世代の人達にも心に残り、日越友好の発展を繋がることを願うものです。協力を頂いた皆様、関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

コンサート会場は禅寺

松井 妙子（名古屋）

愛知で初めての取り組みであり、課題も多く残すことになりましたが、今までに例にない？楽しく暖かいコンサートになったのではないかと思います。

それは、まず会場が相生山徳林寺という禅寺で開催されたことです。会場を決めるとき普通なら公的施設の文化会館や体育館などで行うのですが、実行委員のメンバーで、タイやベトナムとの交流があり、平和に対する思いがとても強い住職おられたことなどから、全員一致で会場が決まりました。ただし、舞台装置の問題で、規模や天気の問題など当日まで準備に追われました。公演前日には台風が接近したため、お寺に泊り込んで作業をするメンバーもあり、気が抜けない状態でありましたが、嵐は無事通り過ぎ当日を迎えることができました。

公演内容で特徴的であったことは、地域の子供たちの踊りを入れたり、アンサンブル演奏と一緒に日本の歌を歌ったりしたこと。日本・ベトナムのお互いの文化に触れてもらいたいとの意見から特別企画として取り組みました。また、地域の町内会長やベトナムに訪問したことがある子供たちに踊りを教えている方などの協力を得て、地

域の年寄りや子供たちを中心に来てもらいました。

「普段着で気楽に來ることが出来る場所でのような素晴らしいコンサートを見ることができて本当に良かった」と好評でした。また、子供たちも目を輝かせてアンサンブルの踊りに見入っていました。そして、このようなコンサートをぜひ今度は、小学校でもっと多くの子供たちに見せたいという意見もありました。今回開催してみても、学校や地域のコミュニティセンターなどで出演者を身近に感じながら一緒に楽しめる取り組みをして

寄稿

チン・コン・ソンの「戦争」



富田 健次
(大阪大学教授・ベトナム学)

ヴェトナムでは4月1日、エイプリルフールのことを「4月魚の日」と呼びます。これは旧植民地宗主国フランスのpoisson d'avrilに由来し、やはりたわいもない嘘なら許される日となっています。

21世紀最初のその「魚の日」に、実に衝撃のニュースが世界を駆け巡りました。あの世界的シンガーソングライター、チン・コン・ソン(Trinh Cong Son)氏がこの世を去ったというのです。誰もがわが目と耳を疑い、電話が、ファックスが、そしてメールが飛び交い、この「悪い冗談」が真実と分かると深い悲しみの淵に沈みました。そして時が経つにつれて、ソン氏らしい去り際の妙に、彼を知る人は成程と納得させられてしまったのです。

1957年、ヴェトナム中部の古都フエにある芸術大学に在学中、「濡れたまぶた」という歌で衝撃的デビューを果たして以来、その後は、アメリカのそして世界の「悪夢」と言われたあの「ヴェトナム戦争」と共に歩まざるを得なかった人です。人間の優しさ、人間の哀しさを歌えば歌うほど、戦争に背を向けないわけには行かず、「反戦歌手・作曲家」の名を無理やり冠されて、権力者から徹底的な弾圧・迫害を受けてしまうのも定められた運命でした。

そして、いよいよ戦争が激化する1960年代後半になると、その名は世界中に知れわたり、日本でも反戦と平和の象徴として若者達の心を捉え、「坊や大きくならないで」「美しい昔」など、日本語に翻訳されて歌い継がれたのです。子供への母親の永遠の愛、いとしい恋人への切なくも哀しい愛、どの曲もが、国を超えて多くの人々の胸を打ったのです。

1970年、ヴェトナム特需に沸く日本で開かれた万国博覧会では、彼の分身とも言われた女性歌手カイン・リー(Khanh Ly)のハスキーな声が流れ、反戦の意志をますます掻き立てたのは皮肉と言う外はありませんでした。ソン氏には遂に来日ヴィザは降りなかったのです。

そして終戦。1975年4月30日は忘れられない日になりました。街には彼の歌が歓呼の中で繰り返し流れ、誰もが明るい未来を確信したのでした。

ところが翌1976年、全国は統一され、新生ヴェトナムの誕生が告げられるや否や、社会主義の実現を急速に追求する北部と、資本主義の世に馴染み親しんでいた南部の矛盾が一気に吹き出してしまったのです。しかも隣国カンボジアとの領土をめぐる争い、それに連動する中国との国境紛争、そしてアメリカを中心とした西側諸国からの経済制裁、更には打ち続く洪水などの自然災害。漸く手に入れた平和は名ばかりで、戦時中以上の苦境に陥ってしまったのでした。相変わらずの臨戦体勢は続いていたのです。

ソン氏の永遠の平和を求める歌はまたもや「反戦」「厭戦」のレッテルを貼られるしかなく、今度は正に「左側」からの弾圧に苦しまなければならなくなったのは、これまた歴史の逆説としか言い様がありません。

反戦を高らかに歌い上げたパートナー、カイン・リーは遂にポートピーブルとなって海に逃れ、ソン氏だけが取り残されてしまいました。孤独の中で孤独を歌う孤高の歌手として、それでも飄飄と生き続けたのでした。彼は深く仏教に帰依していました。死を見つめる彼の目にはいつも輪廻転生の考えが貫かれていました。此岸の苦しみは彼岸の光を信じることによって救われるのです。そしてその光は日常のそこそこに溢れ、慈悲となって私達を優しく包んでいるのだと言います。自然を愛し、人間を愛しぬくにはどうしてもこの慈悲の力が必要なのです。

1996年、私達は日本とヴェトナム両政府を動かして、ソン氏を初めて大阪に招きました。桜にはまだ早い寒い1月でしたが、はち切れるような若さ溢れる新しいパートナー歌手ホン・ニュン(Hong Nhung)を伴って、未だ地震の傷跡の癒えない大阪の地にその記念すべき第一歩を記したのでした。あの万博から実に26年の歳月が流れていました。

ソン氏の音楽は「戦争」の20世紀への激しい警鐘でした。「平和」の21世紀に託された氏のメッセージを私達は正しく読み解いて実践する義務があります。

(2010年ベトナムアンサンブルパンフレットより転載)

いくのも今後の更なる交流につながるのではないかと感じました。

ふえみん一五周年の取り組みとして

渡辺 美里(東京)

今年は「ふえみん婦民主クラブ」(以下、ふえみん)が、ベトナム・ダナン市にある児童養護施設「希望の村」を支援して、一五年になります。その記念行事を企画する中で、JVPF東京支部と共催で、講演とコンサートを開催することにしました。

二〇〇九年秋に、枯葉剤の現状の問題点と支援状況を聞くために訪問したことが、JVPFとのかかわりの始めでした。コンサートのチケット販売を手伝い、コンサートの素晴らしさに感動し、今年は実行委員会として、コンサートを担うことにしました。

「ふえみん」の「希望の村」支援は、一九九五

広がる各地の交流

奨学金支援・医療器具支援

広島↑クアンチ

「広島ベトナム平和友好協会」(HVPF)設立二年目の昨年は、「テトを祝う会」(二月)、「第二回総会」(五月)、「ベトナム講演会」(五月)、クアンチ省少数民族寄宿高等学校・第二期奨学生への「10USD^{ドル}支援」サポーター募集(六〜八月)、少数民族村「医療器具支援」のため遊休医療器具

年ベトナム戦争集結二〇周年に、オリバー・ストーン監督のベトナム戦争三部作の一つ「天と地」の原作者レ・リ・ヘイスリップさんの講演会から始まりました。日本人里親を募ってレ・リさんの作った「希望の村」の支援を始めたのが、翌一九九六年。支援の原点は平和を目指す「ふえみん」の考えに沿ったものです。枯葉剤被害についてもずっと関心を持っており、ツアアの時にはホーチミンの戦跡博物館の訪問等を加えていました。二〇〇八年には、三五年間枯葉剤被害者の問題を追いつけているカメラマンの中村悟郎さんを招いて勉強会を開きました。

こんな大きなイベントを開催するのは不安でしたが、鳴り止まぬ拍手に、実行委員一同満足感があふれてきました。終了後の打ち上げも和気あいあいとした楽しいものでした。団員にとって日本の最後の夜を楽しんでいただけではないかと自負しています。

の募集(六〜九月)、第二次「平和友好訪問団」派遣(一〇月末〜一月初)などを取り組みました。現在は今春予定の三回目を迎える「テトを祝う会」の準備作業を行っています。

「テトを祝う会」は広大留学生や企業研修生などのベトナム人・三三名、市民・四四名が集い、持ち寄ったベトナムのお節料理や我が家の自慢料理に舌鼓を打ち、歌や踊り、手品やゲームなど盛り沢山の催しを楽しみました。

昨年一〇月末の「平和友好訪問団」は、市内五



教育関係者と意見交換

省保健局に届けました。

また、一昨年はじめた「10USD^{ドル}奨学金支援」の第二期奨学生への奨学金を届け、ドゥ校長から「子どもたちの勉強意欲と東広島市や広島県、日本への関心が高まり、感謝している」と述べられました。省教育関係者との会談では「人体模型や簡易な実験器具などの機材も不足しており、中古でも支援して欲しい」など訴えられ、「東広島市とクアンチ省の学校間、子どもたちや教育関係者間で交流促進」が提案されました。

これから一年の総括と来年の活動計画を建て、引き続き活動を強めたいと思っています。

奨学金・文房具として本七〇冊

NGO時遊人↑ニンビン・ナムディン

二〇一〇年のベトナム訪問は、前年より少し早めの一月二〇日〜一月二五日でした。支援者の方にも参加して頂き、スタッフと合わせて一三

つの病院などから提供いただいた顕微鏡や聴診器、白衣、ノートパソコンなど

二六種類、二〇〇点余りの医療器具と広島ベトナム平和友好協会(HVPF)が準備した五台の血圧計の「目録」および一部器具をクアンチ



奨学金贈呈

人の参加となりました。昨年と比べると倍以上の参加で、これだけの飛躍ができたことを大変ありがたく思います。初日は各学校への下準備ということで今年から始めた「本の寄付」のために本屋さんへ。

ベトナム人スタッフの紹介で本の間屋街へ向かい七〇〇冊の本を購入しました。ホテルに戻ってからは買ってきた本の裏表紙に誰からの寄付なのかを証明するシールを貼る作業です。手分けして三時間ほどで完了しました。七〇〇冊という大きめの段ボール四箱分ほどあり、生徒達の喜ぶ顔が目につきます。

ニンビン少数民族高校への奨学金は今年で無事二期目を迎え、一期目の一五名と合わせて三〇名の支援となり、授与式には全員が参加してくれて今年も手渡しすることができました。給食でカレーを作って生徒達に食べてもらいたいという

願いも今年実現し、日本のルーとベトナムの野菜、鳥肉でカレーを作り、全生徒と一緒に食べました。生徒達は大喜びで、先生達からの評判もよかったです。大変うれしく思います。同じくニンビン省にあるニン

フォン中学校には、七人の奨学金支援と文房具二〇キロ、辞書一〇冊を手渡しできました。

また、今年は新たにナムディン省（ハノイから約一〇〇キロ）のタンタイン中学校にも奨学金や本、文房具の支援をすることとなりました。タンタイン中学校は田んぼに囲まれた土手の隣にあり、周囲に住む農家の方たちが協力してお金を出し合い建てた中学校です。だだっ広い校庭にはまだ遊具もなく、備品も足りていません。今年は四〇人の生徒に奨学金支援をし、約七〇〇冊の本と本棚、文房具約五〇キロを寄付することができました。子供達の笑顔を見る度に、ひとりでも多くの日本人にこの気持ちを共有してもらうため頑張りたいと思います。

経済セミナー・文化交流から発展

長野⇄ニンビン

長野県ベトナム交流協会は二〇〇五年一〇月に設立され今年で満五年を迎えた若い任意団体です。活動と言われましてもその殆んどが単発的なイベントでしかありません。私どもの会長がよく「交流というものは五年や一〇年のものではありません。やり始めたら百年千年の単位で息の長いものにしなければなりません」とよく話しています。落ち着いて、地道な活動をせねばと考えていますが、認知度を上げようと「つついっ」無理をして助兵衛根性が顔を覗かせてしまうものです。

隔年行われる大使を招いてのベトナム経済セミナーと枯葉剤被害者支援のベトナムアンサンブル・コンサートを核に、ベトナムへの使節団を毎年出しています。昨年から二月のテト（旧正月）にベトナム人実習生を招いてテトの料理を



テトの集い

作って慰問する「テトの集い」を開催しています。また、信州大学に在籍している二八人の大学生・大学院生との交流をする中で、ボランティアで就職面接の訓練を行っています。

年に四回の季刊紙の発行と二カ月に一度の理事会、六月の総会と事務局では結構やることが多いものです。その他、JICA、大学関係者、長野県の国際交流会議などがあります。新春等のベトナム大使館の行事にも出席を欠かしません。二〇一〇年度はJVPFとIFCにご協力願ひ、珍しく年間二回のベトナム使節団を敢行しました。

五月の「琴と和服の着付け」使節団は、文化交流の礎を築けたのだと思います。一二月に行った「県労協共同主催」の使節団は、ニンビン省との人的交流の礎を築くための貴重な経験をもたらしました。今後、JICA駒ヶ根と協議に入りますが、JICA草の根資金を通してニンビン省と長野県の長い交流が始まるのではと期待しています。また訪問団は枯葉剤被害者リハビリ施設「ホアビン村」へ義捐金を贈りました。

昨年は「ハノイ一〇〇〇年祭」が盛大に日越で行われました。長野でもこれを超える祭りの土台作りを目指して頑張っていきたいと思っています。



多面に広がる活動

奨学金 フット省で三年目。 少数民族出身高校生四五人へ

さる一二月三日、JVPF松浦正美副会長（NPOウォータージョン理事長）ら一行は三期目一五人（高校一年生）の奨学生に奨学金を贈呈しました。一期一五人×三年で、今年三期がスタートしたことになり、奨学生は都合四五人となりました。この奨学金はJVPFがハタイ省で二〇〇五年から開始し、三期（通年五年間、都合六三人）を終了後、NPOウォータージョンを主管としプット省で継続されたもの。二〇一〇年八月二日にはプット省一期、二期の奨学金を授与してきました。

松浦会長は、今回の三期奨学金授与にあたり、この奨学金制度の意義を踏まえ継続を約束してきました。また、二〇一一年五月には、一期生の卒業となります。

章 友好のための勲章を贈られる 勲 松浦正美副会長、細谷久美子会員

JVPF副会長でNPOウォータージョン理事長の松浦正美さんが八月二四日、ベトナム友好委員会連合のホン会長から『平和・友好・民族』勲章を授与されました。

松浦さんは、NPOウォータージョンで枯葉剤被害者の技術支援やチャリティコンサートによる支援など一五年にわたりベトナムとの友好支援



左から細谷さん、グエン・チ・ビンさん、松浦さん、平松さん（2010年12月3日）

活動に携わってこられました。

また、JVPF会員の細谷久美子さんも、去る一二月三日、ハノイでベトナム友好委員会のロイ副会長より同様の勲章を授与されました。細谷さんはJVPF

が設立される前の一九九六年から、IFCC国際友好文化センターの一員として枯葉剤被害者支援の活動に携わってきましたが、その一五年間の活動に対して贈られたものです。

いけばな

いけばなデモンストレーション

INハノイ

～収益金25万円が中部水害被災者支援へ～



製作中の州村衛香先生

一二月五日（日）

ハノイ博物館ホールにて草月流師範、州村衛香先生をお迎えして「いけばなデモンストレーション」が開催され会場には六〇〇人を越す人々が訪れました。午



中部水害被災支援の贈呈

後には、ワークショップも行われ六〇人の生徒たちが州村先生から直接アドバイスをうけ、生花の技術を学びました。これまで、〇八年は日越外交関係樹立三周年記念事業として、〇九年はハノイ遷都一〇〇

年大祭のプレ企画として開催されてきました。今回は、昨年ベトナム側のスポンサー企業のひとつであったビンミン株式会社社の助成により越日友好協会と共催で開催されました。

今後の開催への課題も多いですが、「いけばな」がベトナムに根付くような企画をJVPFとしても進めて行きたいと考えています。

尚、収益金五〇万ドン（二五万円相当）が中部水害被災者支援として贈られました。

DVD上映

米軍の枯葉剤後遺症で苦闘続く

リハビリに励み、生きてゆく少女たち

細谷さんのベトナム現地リポート

市川市の教育会館で一〇月二三日、「平和が好き市川市民の会」の呼び掛けで『米軍の枯葉剤による被害児童のその後を追う』映像とトークの集いを開いた。参加した市民は四〇人。

お話は一九九五年以来、ベトナムを一四回訪問、子供たちに教育奨学金を贈り続けてきた細谷久美子さん。二〇〇八年から「枯葉剤被害児童のリハ

「ビリ支援」にも参加。《まだベトナム戦争は終わっていない》深刻な事実を、多くの市民に知って欲しい…と訴えた。

ベトナム戦争中に、米軍は九万一千トンの枯葉剤を

「ビリ支援」にも参加。《まだベトナム戦争は終わっていない》深刻な事実を、多くの市民に知って欲しい……と訴えた。

ベトナム戦争中に、米軍は九万一千トンの枯葉剤を

二四〇万ヘクタールに及ぶ山野や田畑に空中散布した。その結果、樹木、穀草、飼料用の草原などが枯死。母親の胎内で枯葉剤（ダイオキシン）の影響を受け、両手とも指が一本づつの少女や盲目の三人姉妹、黒いアザに悩む子供など一五三七人が日夜、懸命のリハビリに苦闘している。

DVD『それでも私は生きてゆく』の上映では、歌手、通訳、コンピューター事務などの教育実習と、就職訓練に励む娘さんたちとの交流も伝え、「日本人の支援を心から期待している」と話した。

この日六〇〇〇円のベトナム支援カンパを、細谷さんに託した。

三嶋静夫(平和が好きin市川市民の会事務局長)

『世界を動かした女性』

『グエン・ティ・ビン』

平松伴子著

南部解放・統一 三五周年の年にJVPF会員、平松伴子さんの手に依り発行された。想いが芽生えて？年、着手してから二年。平松さんの思いが実った。平松さんがグエン・テイ・ビン女史のことを熱くわたしに語ったのはいつ頃だったろうか。

話はトントン拍子に行きそうだった。だが、時間がかかった。

平松さんの「夢は持ち続けるもの」が、この著作を成就させたといえる。

内容は、村山会長の序文、早乙女勝元氏の跋文をはじめ、グエン・ティ・ビン女史へのインタビュー、直筆の「小史」、そしてベトナム戦争関係資料など渾身の作である。ベトナムとの友好交流に携わる人たちに一読を勧めたい。

鎌田篤則（JVPF副理事長）

※A4版、三〇二頁、販価一九〇五円 JVPF
 会員の方には特別価格で取り扱います。

村山記念JVPF日本語
学校・三カ年プロジェクト

日本語修学高校生育英基金創設と
協賛のお願い

J V P F 教育支援プログラムは、「日本語修学高校生」支援として二〇〇七年九月から、ホーチミン市で日本語学校を開設してきていました。二〇一〇年五月、一期生三〇人の修了生を送り出し、所期目標の日本留学の途も開けつつあります。

しかし、三カ年で自立運営を目指してきましたが、未だ、日本語修学高校生への授業料援助相当資金の一部が不足している現状となっています。

JVPFは過日の第三回総会で相談いたしました。たが、「村山記念JVPF日本語学校」の開設の志を達成するために、今少しの支援努力を行うこととし、ここに、日本語修学奨励の育英基金を創設し協賛を募ることになりました。（詳細は、同封、募集案内をご覧ください）

●枯葉剤被害者自立支援プログラム——作業場援助の条件視察でバクニン省人民委員会、および「戦争傷害、労働 社会福祉局」施設を訪問（10年8月25日）

J V P F 友好訪問団「タイピンリハビリ施設訪問し、自立支援作業製品（エビストラップ、刺繍絵）を購入支援（10年12月4日）」

●ハノイ遷都100

0年記念大祭に村
山会長、佐藤副会
長、大西理事長ら
11人が参加。同訪
問団はまた、ハノ
イ市平和公園に
JVPF記録の記
念植樹を行った。
(10年10月7日
12日)



ハノイ市平和公園で

●村山日本語学校日本語修学高校生の修了生2人が日本留学合格となった。Chau Huynh Nguyen Oanh（明治大学国際日本学部・村山日本語学校推薦）、Nguyen Thi Thuy Tien（A・D・U、自己進学）。ともに、2009年度日本研修に参加。

●ホーチミン市で経済産業省クールジャパン日本語スピーチコンテストが開催され村山日本語学校は共催となった。JVPFは村山富市名で入賞者に日本語辞書を贈呈。(10年10月19日)

●プート省少数民族出身高校生奨学生が初めての卒業を迎えるので、記念の訪問団を準備中。(2011年5月末に)